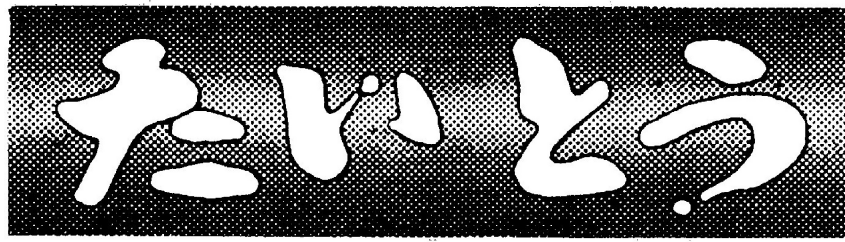


平和 特集号



東京土建一般労働組合
台東支部
〒110-0012 台東区竜泉1-15-2
Tel:03-3876-1966 Fax:03-3875-5965
Mail:taitou@tokyo-doken.or.jp
HP:http://doken-taito.jp
編集 杉本 郁代

核兵器のない世界の実現を

核保有で核の抑止はできない

原子爆弾が広島・長崎に投下されて78年が経ちます。この夏も平和への思いを込めた、原水爆禁止世界大会が開かれました。

台風直撃の影響で、残念ながら台東支部では参加派遣を見送りましたが、戦争に反対し平和運動を願う運動は続きます。原水禁大会に先立ち、平和行進が7月27日に行われました。



猛暑に負けずパレード、区役所前まで歩きました

今年5月に行われたG7広島サミットでは、参加国のリーダー達が、被爆者と面会し、平和記念資料館を訪れ、原爆の被害と向き合いました。G7首脳広島ビジョンでは、「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」ことが再確認されました。

しかしながら、この広島ビジョンは核兵器を持つことで自国を守る、核保有国にとって

都合の良い「核抑止」を前提としているものです。核保有国であるロシアによる非保有国ウクライナへの侵略をみれば、明らかに自衛してきた、シミュレーションを今回はヒューマンに元気がよく声を上げながらの行進となりました。そして沿道の区民や外国人観光客に平和をアピールしました。台東支部からは10人、全体で38人の参加となりました。

2023年秋月間目標

分会名	目標	成果	達成率
清川	7	0	0%
浅草中央	3	0	0%
下谷	1	0	0%
谷中	2	0	0%
松が谷	4	0	0%
上野浅草橋	3	0	0%
直属・事業所	30	0	0%
合計	50	0	0%
青年部	4	0	0%
ライトシルバー	8	0	0%
女性の会	4	0	0%

仲間を増やす 拡大月間スタート

建設業に携わる仲間を増やす取り組みがスタートしました。10月いっぱいまでの行動提起がありました。目標は50人以上となります。

9月5日に支部会館で「秋の活動者会議」を開催しました。東京土建本部の専従常任書記の次長の木村さん、講演では、「マイナンバーとマイナ保険証問題」について述べていただきました。

また、労働対策部担当書記の高見さんより「労働者供給事業」に関する説明がありました。支部組織担当の吉田副委員長より組織拡大を目指す意義と秋の行動提起がありました。私たちは秋の仲間づくり運動に取り組みしていく必要性を改めて認識しました。

拡く呼びかけを

各分会の今秋の拡大目標は別表のとおりとなります。組合員宅や事業所を訪問する際には、困っている組合員の声を積極的に聞き取ってください。組合総合共済の傷病見舞金、石綿関連の講習会、建設キャリアアップ登録、インボイス問題など対話のネタは数多くあります。仲間の働く環境と暮らしを支える建設組合の実現に向けて、目標達成を目指します。

統一行動日

- 第1次行動日 9月5日(活動者会議)
- 第2次行動日 9月13日・14日
- 第3次行動日 9月20日・21日
- 第4次行動日 9月27日・28日
- 第5次行動日 10月11日・12日
- 第6次行動日 10月15日(住宅デー)
- 第7次行動日 10月18日・19日
- 第8次行動日 10月25日・26日

木洩れ日



今年は台風の影響で、長崎の原水禁大会が縮小開催となった。自然の脅威にはなす術がない。せめて様子が知りたいと、テレビで広島の新ニュースを見ていると、小学生の男の子が英語でガイドをする映像が流れていた。戦争体験者がいなくなりつつある今、知らない世代が語り継ぐことの大切さを感じた。経験していかなくても伝えることはできる。あの少年のように、外国人の心に訴えることもできる。

日本の立ち位置が世界から注目される中、岸田総理は国民が望む方向を向いてくれないかと思う。敗戦前、子供まで兵役に就かせようとした。表向きは任意なのに、現実はこの地域からは〇人と決められたらしい。親や先生方の葛藤は如何ばかりだったろう。人を捨て駒にする戦争は狂気としか言いようがない。

このことは今のマイナンバー制度にも通じると思ってしまう。任意はどこにいったのか。国が決めたのだから医療関係者が口を出すことではないとの言い方には、政府のおごりしか感じない。

～2023 平和特集～

『両親の青春とは』

終戦の昭和20年、父は17才、母は16才だった。父の実家は当時葛飾郡青砥村で、農家の8人兄弟の長男だった。妹や弟をおんぶしつつ畑を手伝い、15才で郵政の仕事に就いた。その後夜間大学へ通いつつ、同業の母と出会って結婚し本家を出てしまったが、長男でありながら跡を継がなかったことに、祖父母はがっかりしたことと思う。

それでも65歳までの50年間見事にひとつの仕事を買ったことは、本人にとって何よりの自慢だった。皇居内の郵便局にも出入りし、通信など国の重要な仕事も担っていたため、兵役に就かず済んだのだろうか。職場に祖母が握り飯を多めに持たせたり米を仲間に配ったりして喜ばれたらしい。祖父は畑を耕しつつ、戦闘機が上空を飛んでいくのを眺めていたそうだ。本来恐ろしいはずなのに、どうものんびりとした風景が浮かんでしまう。母は九段下に住んでいて、主食が芋だったため、若い女子は芋好きという概念がなかった。「嫌というほど食べたから嫌い」といつも言っていた。二人の青春時代に戦争の暗い影は感じない。とい



通信員 杉本郁代

終戦日の8月15日正午、両親は黙とうを欠かさなかった。その姿に一番美しく輝いていたはずの若きその日をどんな思いで受け止めたのだろうか。そう考えると私も引き継いでいこうと思う。生きたくても叶わなかった生命があつたこと、生き残った生命のおかげで、今の自分たちがあることを私たちは忘れてはいけないのだ。

『平和への願い』

私は大自然の中で動物の生きざまを見るのが好きです。強いものが弱いものを捕らえて生きのびる、狩りをする姿は迫力あつて面白い。狩りができなくなれば生きにくい。弱肉強食の世界、そのようにして自然界ではバランスが取れているのでしょ

しかし、人間社会でこのようなことがあつてはなりません。戦争などでの外、命の奪い合い、建物の破壊、ライフラインの寸断等に余るものがありま



通信員 福田俊昭

事象は泥沼化し、終わりが見えなくなるの

当事者の気持ちを知ることができません。想像する以上のことが起きてい

過去から目を背けず、

未来を見ずえたい

『戦時下の母の話』

私は戦後の生まれ、戦争を知らない世代と言われ育ちました。確かに戦争を知らないし、体験もしていない、それは本当に幸せなことだとつくづく思います。ウクライナ、ミャンマー、シリアと世界のどこかで戦争や内戦が起きています。日本に

ろ。しかし、私たちの親世代は戦争の真只中を生きてきた現実があります。戦争を体験した人は戦争の話をしたがらないと言いますが、私も父親から戦争の話を実際に来たことがありません。母親から一度聞いただけです。当時母には3人の息子がいました。空襲が始まると三男を背中におんぶ、長男、次男を両手につなぎ、上野の山に逃げました。空襲警報が鳴ると、家長である父は

家に残らなければいけないという決まりがあつたそうです。山に逃げた母たちは、今の国立科学博物館の前あたりで、長男が「もう歩けない」と言い出しました。母は子供たちを両手に抱きかかえ、その場に座り込んでその時、背後から飛行機の音、そして機銃掃射の音が聞こえてきました。母はその瞬間、終わったと思つたそうです。その後、戦闘機は頭上を通過していき、一命をとりとめ

たと言います。私は6人兄弟で、戦後生まれた3人のうちの一人です。母のこの話は、私の記憶のなかで強烈に残っています。今の日本の人口の9割が戦後生まれだそうです。私たち世代のまわりには戦争体験者が

少なからずいましたが、その話をする人は少なくなつたです。何年か前にテレビで見たのですが、外国の政治学者が日本人の報道インタビューとの会話で述べていました。「あなたの国には、世界でたった一つの憲法があります。それは憲法9条です。大事に守ってください」この言葉を8月15日が近づくといつも思い出します。

『核の傘について思う』

8月になると原爆のことが話題に上がることが多くなつた。核抑止力と核の傘なんて言葉も聞こえてくるが多くなりません。今年日本がサミットがあり広島で行われたことから広島出身の首相から核兵器について重大な発言があるのでは？と期待がありました。私には核抑止力と米国の核の傘という考えは破綻しているように思えます。核兵

器を米国もしくは同盟国に使ったならば報復の核兵器を使いますという至極単純な考えです。核抑止力と核の傘なんて言葉も聞こえてくるが多くなりません。今年日本がサミットがあり広島で行われたことから広島出身の首相から核兵器について重大な発言があるのでは？と期待がありました。私には核抑止力と米国の核の傘という考えは破綻しているように思えます。核兵

渡りますかね。渡らな



通信員 杉本良信



通信員 寺山邦裕

私の大切なもの ～分会リレートーク～

今号の分会リレートークは直属分会の吉田光仁さんです。バイクや車に対する熱い思いを語っていただきます。

私は幼い頃から乗り物が好きで、特に車や二輪車に興味がありました。中学生の時には自転車を買った。高校生の時に自動車を買った。1年後、高学年になると自動二輪免許を取得し仲間とスクーターレースに出場したりしました。また、ツーリングで箱根や伊豆あたりによく行きました。18才になり

自動車免許を取得、すぐに買った車は中古で30万円のアメ車ファイアーボードトランザムでした。乗り方が悪かったのか1ヶ月で廃車、その後何台か乗り継ぎ、バブル景気もあり収入が増えて、新車のホンダシビックを購入、カリカリにチューニングを施しました。1年後峠を攻めていたらスリッパして崖へと転落、私は擦り傷程度で救助されましたが、車はまたもや廃車の憂き目へ。次に船舶免許を取り水上バイクを購入、冬



吉田さんとその愛車です

以外の毎週末に江戸川からレインボーブリッジ、デイズニールランド沖の水路を走行して楽しみました。20年ぐらいい運転したでしょうか、結婚を機にやめました。現在ほとんども10年乗っているキャラバン、シグナスが愛車です。今思えば、転倒、事故、漂流と色々ありましたが、無事でよかったです。直属 吉田光仁



夏休みの思い出

夏休みの宿題四天王といえ、私の中ではドリル、絵日記、読書感想文、自由研究だった。真面目と言え、一日分から一週間分、一ヶ月分とまずは、予定表づくりをし、作っただけで満足した。だが案の定その通

りには進まず、予定はどんどんずれていき、そのたびに作り直しの連続だった。結局、最後の最後まで残るのが日記と自由研究で本当に苦戦した。日記はそう新しいことが毎日起きるわけもなく、文章は単調で短くなるし、天気は新聞をめくり直して何とか埋めたと思う。自由研究もアイデアがなかなか浮かばず、一度などは両親に泣きつき、粘土で鮎だか何かの魚を作り（正確にはほぼ作ってもらい）やけに上手な作品を出した思い出がある。自由なのだから研究で

もモノ作りでもよかったのだが、おそらく先生には不信の目で見られていたに違いない。昨今の事情はどうなっているのだろう。大人になつてうれし

**【ライトシルバー
一泊旅行のお知らせ】**

10月22日(日)～23日(月)に、
伊豆下田を貸切りバスで周ります

参加費 … 組合員は15,000円、組合員以外は
実費となります

締切 … 10月2日まで

※詳細は支部事務所へお問い合わせください

8月20日(日)けんせつプラザ東京にて、4年ぶりに開催した将棋大会に、初めて参加しました。動かし方し



当日の対局様子です

母の顔」
「夕焼けは 思い出ばかり」
「遠き空 遠き雲にも 秋香る」
松が谷分会 Y・S

目指せ！藤井聡太七冠

誰でも山柳

「同期会 今度も一人 お隠れに」
「エイアイと このごろ知名度 あがり過ぎ」
松が谷分会 A・I

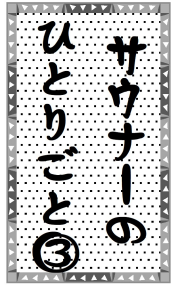
「おまえもか 風呂飯寝るの 三拍子」
「一杯の つもりがいつも はつご酒」
松が谷分会 I・S

※年度末に大賞を決めます
受賞者にはクオカードを進呈します

随時投稿受付中、FAX、メール等で
支部へお寄せください

ちよつと気になるシャッター絵

元教宣編集部員の田中憲治さんのお話です



灼熱の太陽が日本列島を照らし、35度以上の真夏日を今年は何日数えたでしょうか。夏によく聞かれる質問がある。「サウナーにでなければサウナーと一緒にでしょ？」。

5月号で気になる喫茶店として紹介した浅草のシルクロード。こちらのお店の壁画を描いて下さったレタスト田中さんと知り合ったのは、15年前くらいでしょうか。知人から電飾看板の注文があり、寺山工芸所に相談したところ、田中さんを紹介していただけました。その後、寺山貞行さんと共に支部教



田中さんの作品群



確かに日向に出れば大量の汗をかくので、わざわざサウナーに行く事が理解できないのであろう。しかし、くだいようだがサウニング(サウナーに入ること)のメインディッシュは「水風呂」である。温めた体を水で冷や

す、そしてまた温めて冷やす。この温冷交代浴が交感神経と副交感神経を刺激し、自律神経をととのえてくれるのだ。つまり、この暑い日にサウナーへ通うのは水風呂を楽しむに行



皆さんは「シングル」をご存じですか

温1桁の水風呂の通称であり、都内でも

数か所の施設にしか存在しない言わば幻の水風呂だ。まるで砂漠のオアシスののごとく、見つけた時の幸福感は筆舌に尽くしたい。今宵もシングルを求め、熱帯夜の街に繰り出そうか。サウナーって良いなあ。

A・K

宣部員として活躍されていました。2009年ごろから、田中さんの描いたシャッター絵画や国際通りのサインポール群、浅草のおまわりまち参道でちよくちよく目にするようになりまし。浅草だけでも25枚もの作品があるそうです。浅草

おかみさん会ともかなり深いつながりなのか、浅草タウン誌「おかみさん」や、他のタウン誌でも田中憲治さんの名前を見かけます。時々合羽橋本通りにある事務所をのぞいてみると、次の作品の下絵を描いていたりと忙しそう



シャッターに描画中の田中さん



松が谷分会 A・I

【秋の住宅デー お知らせ】

10月15日(日) 10:00~14:00

会場：金竜公園

生涯学習センター隣り

《親子木工教室や包丁研ぎを予定》

※包丁研ぎ受付は12時まで

第2回 台東支部天国交遊録

矢代 照和さん
ハウスクリーニング
松が谷分会
元分会長
組合在籍歴2002-2015

矢代さんとは、忍岡中学校の同級生で、50年以上の付き合いでした。いわば腐れ縁なので敬称は以後つけませぬ。もちろん、支部で1番長い友達でしたので、亡くなった時は非常にショックでした。彼の本業は日本刀の研師でした。住まいは上野松坂屋の裏で、旧町名は「長者町」という所に住んでましたが、金持ちとはまるきり縁がなかったと思います。私の知り合いで山手線の内側に住んでいたのは彼だけです。東京土建に入ったのは、本業の仕事が少なくなり、私がハウスクリーニングを紹介したのがキッカケです。亡くなるまでWワークでガンバっていました。彼は一時期研師の廃業も考えて、相談を受けたことがありました。わたしは矢代が長生きして日本に他の研師がいなくなれば「人間国宝」も夢じゃないと励まして、本当に「人間国宝」になったら、わたしをお抱え運転手に

税務調査への注意喚起

国税庁によれば「調査における重点事項」として、①消費税の適正課税のため、十分な審査と調査を実施、②資料情報を活用し、的確に無申告者を把握、などを挙げられています。また、限られた人員の中で適正かつ公平な課税を確保するため、実地調査以外にも様々な取り組みを実施し、具体的には文書や電話による簡易な接触で効果的、効率的な事務運営を行うとしています。

国税庁はあらゆる機会を通じて資料を収集し、それをもとに調査を行います。コロナのため一時減っていた実地調査も増加傾向にあります。税務署から問合せがあった際には支部事務所へ一報ください。対策を講じましょう



在りし日の矢代照和さんの姿

デューク遠藤